

今後の本市の財政負担について

本市では近年、新本庁舎や保健センターなどの整備を行ったほか、現在は（仮称）緑の森公園保育所や（仮称）地域スポーツセンターの整備などを進めています。さらに、今年度からは、小中一貫校整備事業や小中学校屋内体育施設空調設備の設置、大袋地区センターの建て替え等に本格的に着手するなど、多くの大規模な事業※に取り組んでいます。

こうした事業は、財政負担の平準化や世代間の負担の公平化などの観点から、その事業費の多くを借入金（市債）によって賄い、その後「公債費」として毎年返済しています。

（家計に例えると、新たに家を購入する際に、その全額を一括で払えない場合、銀行などから資金を借り入れ、「住宅ローン」を組んで、その後、一定額を毎年返済していくようなイメージです。）

※ 主な大規模事業およびそれに係る今後の財政負担の見込み【概算】

金額は当該事業について市が負担する10年間の総額（補助金・国県支出金等を除く）

	主な大規模事業	2023～2032	
		財政負担額	うち公債費
庁舎	新本庁舎(外構) 新本庁舎(本体・協働ゾーン)/第三庁舎	37 億円	37 億円
地区センター	大袋地区センター/川柳地区センター 出羽地区センター/大沢地区センター	30 億円	18 億円
保育所等	(仮称)緑の森公園保育所/蒲生保育所 大袋保育所/荻島保育所/ 大相模保育所/児童発達支援センター	24 億円	24 億円
消防署	桜井分署(現間久里分署)/ 共同指令センター 谷中分署	33 億円	28 億円
教育関連施設	小中一貫校/小中学校LED化/ 小中学校屋内体育施設空調設備 小中学校空調設備/川柳小校舎増築	187 億円	154 億円
その他施設等	(仮称)地域スポーツセンター 保健所/保健センター/ 老人福祉センターひのき荘	33 億円	19 億円

〔上段赤字〕 現在着手している、または今年度から着手する大規模な事業

〔下段黒字〕 2022年度以前に実施した大規模な事業で、2023年度以降も借入金(市債)の返済(公債費)が残る事業。

本市では、これまでに借り入れをした市債および上記の大規模事業にかかる公債費として、概算ですが、今年度(令和5年度/2023年度)から10年間、平均で1年あたり約41億円の返済を見込んでいます。

これは、昨年度(令和4年度/2022年度)までの過去10年間の平均

(1年あたり約42億円)とほぼ同額となります。

このほかにも、道路や公園、橋りょうなどの社会基盤となる施設の整備等も継続的に行っていく必要があります。

さらに、既存施設の老朽化なども進んでおり、サンシティ以外にも、この先10年以内に何らかの形で整備(改修や建て替え)等を検討しなければならない施設や事業(下表)などがあり、これらを加えると、将来にわたって大きな財政負担が生じることになります。

(下表の事業も、例えば、「国や県の補助金は活用できないか」「民間活力は活用できないか」といったことを検討・精査しながら、本市の財政負担の抑制に努めていきます。)

・市立病院	・桜井保育所など8施設	・小中学校
・学校給食センター	・市営住宅	・道の駅
・GIGAスクール(機器更新等)	・リユース(負担金)	など